

Ⅲ 教育部会報告（部会長 渡邊俊輔）

1.大淀川環境保全クラブ育成事業(宮崎市環境政策課)

大淀川の保全活動をととして、自然環境や生態系の維持を図るための学習を行う。併せて、クラブ生徒が身近な些細なことでも環境保全が率先して行える人物、また、将来的には環境保全活動の指導者的な人物へと成長していくことを目的として6回実施しました。

参加者：小学4年生～中学生 24名

【第1回】大淀川の生き物保全ワークショップ

開催日：令和3年7月11日（日）

内 容：大淀川学習館で、開校式を行って説明をした後大淀川の水と生き物について学び、せせらぎ水路に移動して、水辺を観察して生き物が住みやすい環境に整える方法についてみんなで考えました。



【第2回】五感による水辺環境調査

開催日：令和3年10月3日（日）

内 容：川の生き物のつながりを学び、天満橋下の小川を調べて、小川を生き物が住みやすい環境に整える方法についてみんなで考えて話し合いました。



【第3回】絶滅危惧植物タコノアシの生育地の拡大とカヌーで水辺観察

開催日：令和3年10月17日（日）

内 容：タコノアシの生育範囲を広げる方法を考えて、砂州で実行しカヌーで水辺を観察しました。



【第4回】小魚の生育地の拡大と稚魚の放流

開催日：令和3年11月14日（日）

内 容：小魚の生息範囲を広げる方法を考えて、小川で実行し稚魚を放流しました。



【第5回】成果のまとめ

開催日：令和3年12月5日（日）

内 容：タコノアシや小魚の生息・生育状況を観察して成果を確認しました。



【第6回】成果の発表

開催日：令和3年12月22日（日）

内 容：宮崎市民プラザの大会議室で成果を発表しました。



2.タコノアシ保全活動(河川基金)

大淀川における河川整備計画改修で天満橋上流の砂州が掘削されるため、掘削予定地に生育するタコノアシの移植と競争種の除草を実施しました。また、天満橋付近の河川敷には、タコノアシ以外にも多くの生物や植物が生育しており、治水と環境保全が調和する川づくりの重要性を地域住民の方々に知っていただくための観察会を開催しました。

【移植活動】

実施日：令和3年6月5日（土）・7月22日（木・祝）

活動場所：大淀川右岸 天満橋下付近 河川敷

参加人数：一般、宮崎総合学院、宮崎河川国道事務所、大淀川流域ネットワーク 計256名



【観察会】

実施日：令和3年11月20日（土）

活動場所：大淀川右岸 天満橋下付近 河川敷

参加人数：宮崎市内の小学生と未就学児、保護者 計60名



大淀川下流域に住んでいる絶滅危惧種を含めた110種の生き物を写真付きで説明した小図鑑を作成し、参加者全員にプレゼントしました。

3.宮崎市環境学習パートナー派遣事業

宮崎市環境学習パートナー派遣事業の支援依頼があり、水の不思議体験を実施しました。

① 実施日：令和3年6月22日（火）・7月27日（火）

参加者：波島保育園 各20名

② 実施日：令和3年8月4日（水）

参加者：憶児童センター 14名



4.津谷原沼 お魚さんのすみか作り

国交省では、津屋原沼において津波・高潮対策事業を進めています。新しい水路と樋門が完成したため、小魚のすみかとなる水草コアマモを新しい水路に移植する体験イベント「お魚さんのすみか作り」の準備が進められていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止になりました。

実施予定日：令和3年8月21日（土）

■考察

本年度も新型コロナウイルス感染症拡大による日程変更のため参加できない子どももいたが、中学生も参加してリーダーとして率先し、班の子ども達も自発的・積極的に最後まで真剣に取り組み、環境保全の関心度を高めたことが確認できた。

絶滅危惧種タコノアシの保全活動に参加する機会を提供したこと、「生き物小図鑑」配布とパネル展示、河原での観察会、「ミニ地球づくり」の実施等、治水と環境保全が調和する多自然川づくりの重要性についての啓発と理解を図ることができた。

絶滅危惧種タコノアシの保全活動に住民の参加を呼び掛け、次世代に自然が豊かで恵みをもたらす良い川を受け渡す取り組みを継続する。

新型コロナウイルス感染症対策や安全管理を踏まえたイベントの実施、SNS等を利用した告知や募集を行い広く周知していきたい。